



緊迫する世界



川上高司
★★★

9月10日、ジョン・ボルトン米大統領補佐官（国家安全保障問題担当）が、ドナルド・トランプ大統領に解任され

14日、サウジアラビアの国営石油会社サウジアラムコの石油施設2カ所が攻撃を受けた。イエメンの親イラン武

一方、この攻撃で、サウジアラビアは石油日量生産能力の半分（世界石油供給量の約5%）の生産停止に追い込まれ、石油原価は最大20%も上昇した。米国とロシア、中東の石油産油国には、うれしいニュースだ。イランの犯行となれば

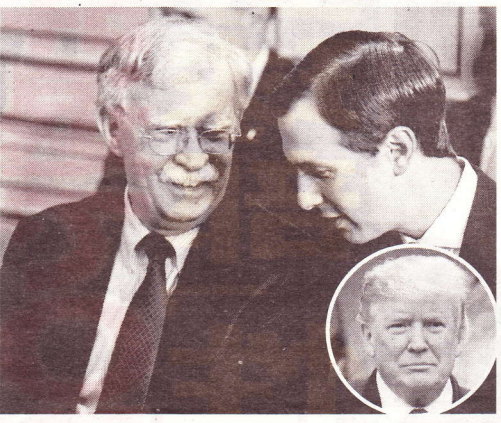
ば、クシュナー氏はイスラエルの肩を堂々と持つことができる。トランプ氏は、イスラエルの総選挙後、パレスチナ問題の「和平プラン」を発表する。クシュナー氏が仕切るので、和平プランはイスラエルに有利なものとなるだろう。

とディールして「朝鮮戦争の終結宣言」を出すかどうかは不明だが、お膳立てをするポンペオ氏の役割が重要となる。ポンペオ氏は来年の上院議員選挙に、地元カンザス州からの出馬を検討していると伝えられている。出馬前に功績を挙げたいのは否定できない。

喜んだのは3人だ、トランプ氏の娘婿で、「イスラエルの代理人」と言われるジャレッド・クシュナー大統領上級顧問と、北朝鮮との関係回復で政治的得点を挙げようとするマイク・ポンペオ國務長官、中国とディール（取引）して市場を落

ちつかせたいステイブ・ムニューシン財務長官である。ボルトン氏解任直後の

ボルトン解任後の世界



すべての外交が利害で動く

そうなれば、パレスチナは猛反発し、湾岸諸国のイスラム教徒も黙っていない。再び、国際テロ組織アルカイダのような、反米、反イスラエルの過激派組織が生まれ、中東情勢が不安定になる

可能性は否定できない。それを予測してか、米国はイスラエルとの軍事同盟を結ぶと発表した。北朝鮮の金正恩（キム・ジョンウン）朝鮮労働党委員長も安堵（あんど）しているだろう。ボルトン氏が去ったことで

米国の先制攻撃はなくなると読み、米朝首脳会談に期待を持つだろう。トランプ氏が、北朝鮮

トランプ氏（円内）に異論を唱えたボルトン氏（左）の解任を、クシュナー氏は喜んでいるのか（AP）

米国の先制攻撃はなくなると読み、米朝首脳会談に期待を持つだろう。トランプ氏が、北朝鮮

緊迫した世界で、安倍晋三政権がどう動くかもおかしくない。